
俺は女の子!?

桂 ヒナギク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺は女の子！？

【Nコード】

N3151L

【作者名】

桂 ヒナギク

【あらすじ】

目が覚めた俺は、好きな子の体に入っていた。

1・サボリ

俺は影山 かげやま 成一 せいじ。ある朝、目が覚めると、俺は見覚えの無い部屋に居た。

起き上がると、背中に違和感を覚えた。

恐々と背中に手を持って行くと、黒くて長い髪の毛がそこにあった。

これってまさか？

俺はベッドから出ると、部屋の隅っこにある鏡台の前に移動して鏡を覗いた。そこに映ったのは、容姿端麗な少女の姿だった。

俺はこの女の子を知っている。この子は俺と同じ学校のクラスメイトで、名を天道 てんどう 光 ひかり と言う。俺はこの光に片思いをしていた。

「 って、何で光になつてんの!？」

驚き戸惑う俺。

落ち着け、俺。これは夢に違いない!

そう思つて頬を抓ると、痛みを感じた。

夢じゃない。

何でこうなつた？

俺は昨日の事を整理してみる。

昨日、学校で光に告白して振られた俺は、帰りに不思議なお店に立ち寄り、妖しい商品を購入した。それは、特定の人物になれる薬なりたい人間の事を思い浮かべながら飲めば、翌朝にその人物になつていと言つた代物だ。俺はきつと、薬の効果で光と入れ代わつたに違いない。

そう思つた俺は、光の携帯電話で俺の携帯電話にコールした。

「もしもし」

スピーカーから男の眠そうな声がする。

「もしもし」

「うん? ああ、光か。どうしたんだ?」

「どういう事だ？」

「いや、起こそうと思って電話しただけ」

「そうか」

「ブツツと切れる電話。」

俺は携帯を置いて制服に着替え、部屋から出た。

廊下を真っ直ぐ右へ進むと、左側に階段があり、半分ほど降りると右にUターンするかのよう折れていた。

下の階に着いた俺は、リビングへ入った。

「光、お早う」

キッチンでお弁当を作っているおばさんが言った。

「この人が光のお母さんだろう。」

「お早う、お母さん」

俺は取り敢えずそう返して席に着く。

テーブルには既に朝食が並べられていた。

「いただきます！」

俺は朝食を素早く食べ、

「ごちそうさま！」

部屋に戻って携帯電話を懐に仕舞い、鞆を持って玄関に向かう。

「光、お弁当はいいの!？」

「今日は食堂で食べるからいい！」

俺は家を飛び出すと、登校中に昨日のお店へ立ち寄った。

「おじさん、昨日ここで薬を買った影山だけど！」

「と言つ事は薬を飲んだだね」

「その事で一つ質問があるんだけど、入れ代わる前の俺はどうなってる訳？」

「君の本体には君の分身が入ってる」

「じゃあこの女の子は？」

「君の魂が入った事でその子の意識は眠ってる。言わば、君がその子の体に乗っ取ったと言う事になるね」

「成る程。お陰で状況が把握出来ました。では」

俺は店を出て学校に向かった。

学校に着くと、教室の前に少年が立っていた。

黒の短髪でブサイクに近い顔の彼は俺自身。俺と光は幼馴染みだ。

「お早う、成二。何してるの？」

成二は振り返った。

「お、お早う」

成二は気まずそうな顔をした。

先ほどの話を要約すると、この成二は俺の分身と言う事か。

「成二さ、昨日、私に言ったよね。好きって」

「あ、うん……」

これは願ってもないチャンスだ！

「振っちゃってごめんね。本当は私も成二の事が好きなの」

「え？」

「付き合っただげる」

「光……？」

「こんな所でポーツとしてないで中に入ろう？」

俺は成二の手を引いて教室に入った。

お互いに席へ着く。

光の席は窓際の一番後ろ。その前が俺だ。

「ねえ、成二」

「何だ？」

振り向く成二。

「あのさ……今日、お財布を忘れて来ちゃって、その……悪いんだけど、お昼奢ってくれない？」

「それは構わないけど、どうして俺なの？」

「近いから」

「……………」

成二は無言で前を向いた。

前の扉が開き、先公が入ってくる。

朝会が始まり、先公がつまらない話をし出す。
やがて長い話が終わり、先公が出て行く。

朝から尿意を我慢していた俺は、女子トイレに駆けた。
個室に入り、用を足して出る。

スツキリした。

手を洗い、教室に戻って授業の準備をした。

一限目は数学。俺の苦手科目だ。

「光、サボろうか」

成二からの突然の誘い。

「うん」

俺は素直に同意してしまった。

「どこにする？」

「屋上でいいんじゃない？ 行く所無いし」

「そっか。そっだね」

俺と成二は屋上でサボる事にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3151/>

俺は女の子!?

2010年10月10日13時54分発行